

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム めぐみ	評価実施年月日	平成 20年 2月 22日
評価実施構成員氏名	中村 岡本 小林 広瀬 村田 河村 松田 山崎		
記録者氏名	山崎 博子	記録年月日	平成 20年 3月 13日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営理念の中に地域とのかかわりを大切にすることを掲げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示して、いつでも見ることが出来るようにしている。		職員間の話し合いを行い、理念の共有を進めたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	1階廊下に掲示してあり毎日見ることが出来るようになっている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ごみ投げ、散歩、買い物へ出掛けた際は、近所の人と挨拶を交わしている。1階部分に休憩できるスペースを作っている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	交通安全パレードへ入居者と職員が参加したり、地区交流会、子供110番の地域での取り組みに職員が参加したりして交流に努めている。		地域主催の交流会等への参加を今後も継続したい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地区の社会福祉協議会が行った地域ニーズに基づく交流会等に参加して、地域の高齢者のニーズがどこにあるかなどの把握に努めている。地域の高齢者のニーズに対して具体的な取り組みはできていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を職員に提示し、サービス改善に活かすようにしている。意義について周知するようにしている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では施設での取り組みに対しての要望、助言を伺い検討している。		運営推進会議において評価の取り組み状況をもっと話し合うようにしたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市への管理上の報告業務をしたり、介護認定申請時には出向いて、市との連絡を行い助言を頂いている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度というものがあるという事は職員間の話し合いで周知している。必要な人への支援の準備を行っている。		職員同士で地域権利擁護事業や成年後見制度についてより詳しく学ぶ機会を持ちたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間のミーティングで虐待への話し合いを行い、職員同士が入居者への対応について振り返りを行い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族に入居時に契約についての説明をすると共に、来所時にもその都度、不安、疑問点を伺うようにしている。		利用者や家族の不安、疑問点を尋ね、気軽に話して頂けるよう対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者に個別に話をする機会を持ち、意見、感想を伺っている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時に必ず職員より近況報告をしている。また、出納報告を文書でお知らせしている。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の来訪時、意見を伺い職員間の話し合いで検討し、運営に反映させている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>話し合いの時に意見を聞き、日常業務に活かしている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者の状況に応じて、職員からの意見、要望を聞き、必要な人員を配置できるように柔軟な対応を行っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の移動はやむおえない理由を除いては行わないようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内部で新人研修が春、秋に計画され実施されている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの横のつながりとして、認知症高齢者グループホーム協議会 道北ブロックに関わり現在も継続して活動している。		道北ブロック主催の研修会には、ほぼ毎回、職員が参加している。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員間の親睦の機会を定期的に行っている。休日は極力、本人の希望を聞いている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々への適時の普段の言葉かけを行い、向上心を持ってもらうよう努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に本人、家族への訪問を行い、本人の話を傾聴するようにしている。本人、家族、それまで生活していた部屋、家具等を拝見し、生活の様子を知り本人への理解に努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居後の初期は家族の来所時、その都度、家族の思い、希望を聞き家族が安心して頂けるようなサービスができるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者、家族の状況、要望を聞き改善に向けた支援が出来るように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	認知症対応型通所介護を利用してその中で職員と馴染みの関係を作り、他利用者、ホームの雰囲気を体験して頂くよう家族と相談して進め、利用がスムーズになるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者と一緒に過ごす中で気持ちを共有し、本人から学んだり、感心させられた体験を職員同士で話し合う機会を作っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時は、本人の最近の状況を報告している。また、心身の状態に異変が見られた時は、その都度家族に連絡をして対応の相談をしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の気持ちの支え合いが出来る様な機会をつくっている。		集団外出時など、お誘いの声かけを行なっている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活暦を昔の写真等と共に、本人の記憶を大切に時々振り返る機会をもっている。		ご家族、友人からのお手紙の返信を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな利用者は職員が関わり一緒になって交流できる機会をつくり、入居者同士が過ごせる配慮をしている。		入居者が居室を行き来できる様見守っている。入居者同士の相性を把握しトラブルを早期発見し解消できる様対応している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居者が退所されてもご家族が訪問され、時にはボランティアで参加して下さっている。特別な行事への参加の声かけを行っている。		ボランティアとして月に1~2回来訪してくださり、昔なじみの唄を入居者と共に合唱されている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との会話で本人の希望などの把握に努め、入居者との何気ない交流の中で本人の思いに沿うようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の本人、家族の面接時より、本人のこれまでの暮らしぶりなどの情報を得ようご家族と話し合いを行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人経過記録に日々の生活、入居者の発言、変化を記録している。個人経過記録・申し送りノートを職員全員が読み、確認し職員間の意見交換を行っている。		入居者の言動、行動、また、特変があれば必ず経過記録に残し、職員間でサービスの提供方法を検討している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者担当の職員参加による担当者会議などで本人の現在の生活状況に合うケアの検討を行い、意見を出し合い介護計画を作成している。		認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式シートを活用して、ケアへの意見やアイデアを介護計画に盛り込みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に事前に担当者会議を行い、入居者の現在の状態に合ったケアを話し合い計画に反映するようにしている。変化があれば、見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランは職員が共有できる場所でいつでも見る事が出来るようにしている。モニタリングを行い担当者会議を定期的に行っている。		朝の申し送り等で、職員の気づいた事などを話し合い情報を共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況、要望に応じた個別的な対応を行っている。外出、外泊ではご家族の都合で一緒に行動できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の行事の参加、散歩、買い物にてご近所の方との挨拶、交流を図っている。		2ヶ月に1度の地域運営推進会議での親交を図っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時紹介できるようにしている。		地域のサークル活動への参加にも取り組んでいきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて支援に関する情報を頂いたり、協力関係を築いている。		本人の意向を大切に地域包括支援センターと協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同一法人で母体が内科クリニックであるため医療連携への家族の期待が高く、安心して頂けるよう随時、連絡や相談をし往診や受診を実施している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医師に相談、連絡を取り、状況により認知症の専門医院への受診ができる準備をしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制により、毎週1回、同一法人の訪問看護ステーションの看護師の来所により援助を受け、健康管理に対する適切な指導、助言を頂いている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者、家族と連絡を取り話し合いを進め、退院が早期になるようにしている。		入院先の医療相談員との連絡を取り、相談できる関係を築きたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期への本人、家族の希望を聴き、チームでの出来る限りの支援に努めている。看取り体制についてご家族と施設側での話し合いを行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医への連絡、相談を随時行い、施設側で出来る事の支援を行っている。本人や家族の終末期の希望を確認し進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームの運営理念を説明文書及びホームの見やすい所に明示し、入居者、及び家族へ説明している。馴染みの物を各自で持ち込み家族と一緒にお部屋作りを行うなど対応している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>認知症介護等の研修に参加するなど学習を重ね、各入居者を尊重し言葉かけや対応について常に気をつけてケアに当たっている。</p>		<p>申し送りなどで、言葉かけや対応について情報交換を行っている。今後も行っていきたい。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者本人の意思を尊重し、説明を行いながら自己決定できるよう支援している。意思表示が困難な方には、選択できるよう声かけし表情を読み取りながら行っている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースを見守り本人を尊重するように対応している。</p>		<p>散歩や買い物など利用者の要望や希望にそった支援をしている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類の乱れ、汚れなどは、声かけにより整えたり、交換したりその人らしい雰囲気大切にしている。</p>		<p>希望に応じて理容・美容室へ外出したりする。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員と一緒に食事準備、片付けを行い支援している。</p>		<p>今までも行ってきたように利用者との関係を大事に支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	通常の食事や行事食以外にも利用者の好みのものを作ることもある。		食事会を兼ねて好みのものを1人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう行いたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ち良く排泄できるよう援助している。トイレの個数が限られている為、入居者同士のトラブルがないようポータブルトイレを設置して対応出来るようにしている。		適時、職員からの声掛けを心がけ、トイレ誘導等援助していききたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しんで頂くよう援助している。		今後、1人ひとりの希望に細やかに対応し、曜日、時間帯についても検討したい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	室温、居室の明るさ、清潔に配慮し1人ひとりの生活習慣に合わせて休息、入眠して頂くよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人ひとりの状況に合わせて好きな歌を歌ったり、職員と一緒に話し笑ったりする気晴らしの支援を行っている。		月に1回程度、楽しい行事を行っていききたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散歩の際、本人の要望があれば立ち寄ったお店での買い物や支援している。訪問販売の際、利用者の状態により自由に品物を選び、お金の支払いなどできるよう援助している。		入居者のお金を持つことの大切さを理解し、本人の希望によりお金を使えるよう援助したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の体調に配慮し、天候の良い時には戸外への散歩を実施している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に1~2回、集団外出で公園等に出かけたり、少人数のドライブで自然の中で過ごして頂くよう支援している。近隣のデパートにて外食を実施し、利用者や家族と一緒に出かけられるような機会を作っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者の要望により、実施している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族などの訪問時は本人の居室にて、ゆっくり一緒に過ごして頂くよう配慮している。		ご家族が気軽に訪問して頂けるよう心掛けたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の様子を観察し、安全な生活が送れるように声かけを十分に行い身体拘束のないケアに努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中、開放している。2階、階段の入り口の柵は転落防止のため、適時、自由に出入りし暮らしを支援している。		離所等のないよう必ず目視する様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者の様子を把握しながら見守りを行い、調理仕事や事務作業を行っている。夜間巡回を行い安全に配慮している。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>1人ひとりの状態に応じて、保管場所、管理方法について取り決めを行っている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>緊急時対応のマニュアルがあり、職員は内容を把握している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し対応に備えている。万が一、事故が発生した場合には対応した職員が事故報告書に記入し、ミーティング等で話し合うなど改善につなげている。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年、2回の避難訓練を行っている。周辺地域の諸施設、商店、老人保健施設などからの協力を得ることが出来る。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時から、ご家族への説明、同意を頂き、常に説明を行っている。異常時には、かかりつけ医へ報告し、往診又は受診介助を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の状態を把握し、ちょっとした変化でも早急に対応を行い、また必ずその日、他職員へ申し送りを行っている。		平素の状態を把握することにより異変の発見につなげていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示通りの内服の支援は出来ているが、全ての職員が薬の内容や副作用について把握は出来ていない。		学習会等により、どのような内容の薬か、副作用等を把握できるように学んでいきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬だけに頼らず普段の食生活、水分摂取、運動、生活リズムに気をつけている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者ご自身でできる方は見守りを行い、また、声掛けや介助を行うことで口腔衛生に配慮している。歯の状態に応じて、歯科往診治療を実施している。		夜間は、入れ歯洗浄剤にて入れ歯を洗浄し清潔を心がけたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量、排泄状況の観察を行い、1人ひとりの状態に応じた支援をしている。		体重測定を月1回行い体重の変動を観察している。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを励行している。インフルエンザの予防接種を行っている。感染予防に関する研修会に参加しマニュアルも用意している。		今後も感染症に関する研修会等に参加し情報収集を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理に入る前、厨房に入る時は必ず手洗いを行っている。毎日、塩素系漂白剤を使用しふきんやまな板等の消毒も行っている。		今後も徹底して行き、常に新鮮な食材を使用し食中毒予防、衛生管理を行う
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームのまわりに花や野菜を植えている。玄関にはベンチを置きくつろげるようにしている。		御家族、近隣の方にも気軽に出入りして頂けるよう玄関の空間を利用し明るいイメージになるよう工夫したい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ホールの壁には毎月季節に合った装飾を作り飾っている。行事で取った写真も貼ったりしている。		家庭的な雰囲気でご過ごして頂けるよう居心地の良い空間作りに努める。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	廊下にはソファや椅子があり利用者同士で会話されたり、テレビ視聴されたり利用者が好きな場所で過ごせるように工夫している。		利用者が自由に過ごすことができるよう配慮していく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	馴染みの小物を配置したり、タンスや物入れには中身を書いて貼る等をし、本人が自然に分かるよう工夫している。		各居室にはクローゼットが設置されているが、それ以外は馴染みの物を各自で持ち込み、家族と一緒に部屋作りを行なっている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気は1日に何度か訪室し、温度を見て上がり過ぎないよう、寒くなり過ぎないように行っている。		冷やし過ぎ、暖め過ぎないように適切に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>浴室の手すりや浴槽内に台を設置している。廊下、階段に手すりが設置されている。また、階段には昇降機を設置している。</p>	<p>グループホームが2階にあるので、足の不自由な方は昇降機を利用する事ができる。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>家事に関する作業は馴染みがあり、床掃除、食事の準備等、その人ができる事を手伝って頂いている。</p>	<p>手工芸は安心して取り組める事や自分で作った作品が飾られたりすると、周囲の人から褒められたりする事で、コミュニケーションのきっかけにもなるので行なっていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周りに庭はあるが、建物が2階にあり、眺める事が出来ない利用者が多いので、玄関前にて春から秋にかけて花壇作りをし、利用者を楽しんでもらっている。</p>	<p>外回りに花野菜を植えている。玄関の花には職員と一緒に水やりを行っている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)ケアプランの作成時等で、ご家族の要望をお聞きして、高齢なので健康で過ごせるようになどの要望に応えサービスに取り組んでいる。また、家族の意見や要望に柔軟な対応ができる職員が多い。